

東京応化工業株式会社 決算説明会資料

-2018年12月期第2四半期決算-

2018年8月9日

東京応化工業株式会社

tok

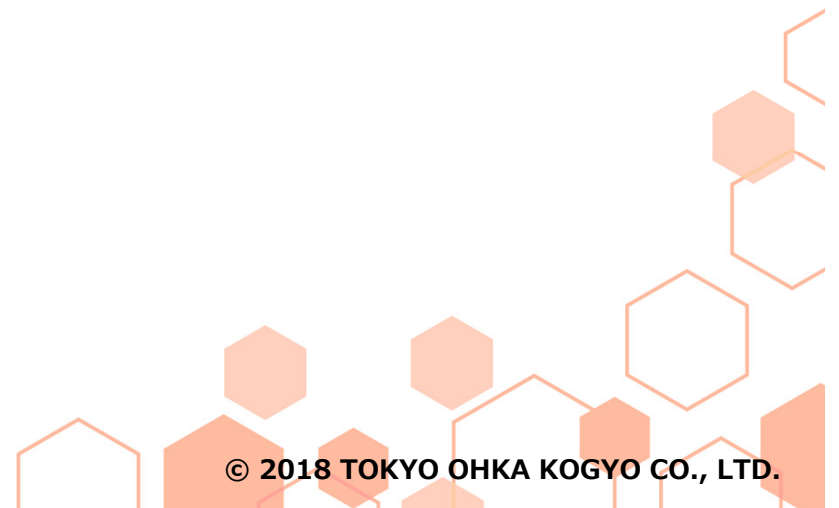
目次

1. 2018年12月期第2四半期業績 p.2
2. 2018年12月期通期業績予想 p.14
3. 今後の重点活動について p.21

2018年12月期第2四半期業績

tok

© 2018 TOKYO OHKA KOGYO CO., LTD.



2018/12期業績説明について

- 決算期変更に伴い、2018/12期業績説明（実績・予想）は、2017/12期業績を同一期間に組み替えて行っています。

※第87回定時株主総会（2017年6月28日開催）において承認（3月31日⇒12月31日）

	2017/3		2017/12				2018/12			
		3Q 10-12月	4Q 1-3月	1Q 4-6月	2Q 7-9月	3Q 10-12月	1Q 1-3月	2Q 4-6月	3Q 7-9月	4Q 10-12月
国内（3月決算）		3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	1Q	2Q	3Q	4Q
海外（12月決算）	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q



	3Q 10-12月	2017/12暦年補正				2018/12				
		1Q 1-3月	2Q 4-6月	3Q 7-9月	4Q 10-12月	1Q 1-3月	2Q 4-6月	3Q 7-9月	4Q 10-12月	
国内（3月決算）	3Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
海外（12月決算）	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q

2017/6暦年補正
2018/6

業績概要

(百万円、%)

	2017/6 暦年補正	2018/6		
		増減	増減率	
売上高	48,063	50,748	+2,684	+5.6
営業利益	4,506	4,674	+167	+3.7
経常利益	4,893	4,675	△217	△4.4
親会社株主に 帰属する四半期純利益	3,378	3,210	△168	△5.0

(注) 決算期変更に伴い、2017/12期暦年補正の第2四半期累計期間（1～6月）との比較になります。詳細はスライド3をご参照下さい。

- 期中平均為替 (USドル) : 111.1円/ドル (2017/6暦年補正) ⇒ 107.6円/ドル (2018/6)
- 売上高 : 材料・装置の両事業ともに前年同一期間実績を上回り、+5.6%増収。
- 営業利益 : 原料価格上昇の影響を受けたものの、装置事業の赤字縮小もあって、前年同一期間比+3.7%増益。
- 四半期純利益 : 営業利益の増加、特別損益の改善があったものの、税効果会計による特殊要因から、前年同一期間比△5.0%減益。

営業外損益・特別損益

05

(百万円)

	2017/6 暦年補正	2018/6	増減
営業外損益	386	1	△385
受取利息・配当金	+185	+193	+8
(為替に係る差損益)	(△113)	(△121)	△7
為替差損益	+207	△514	△721
デリバティブ評価損益	△320	+392	+713
特別損益	△776	△64	+712
減損損失	△664	-	+664
固定資産除去損	△99	△68	+31

(注) 決算期変更に伴い、2017/12期暦年補正の第2四半期累計期間（1～6月）との比較になります。詳細はスライド3をご参照下さい。

事業別セグメントの業績

06

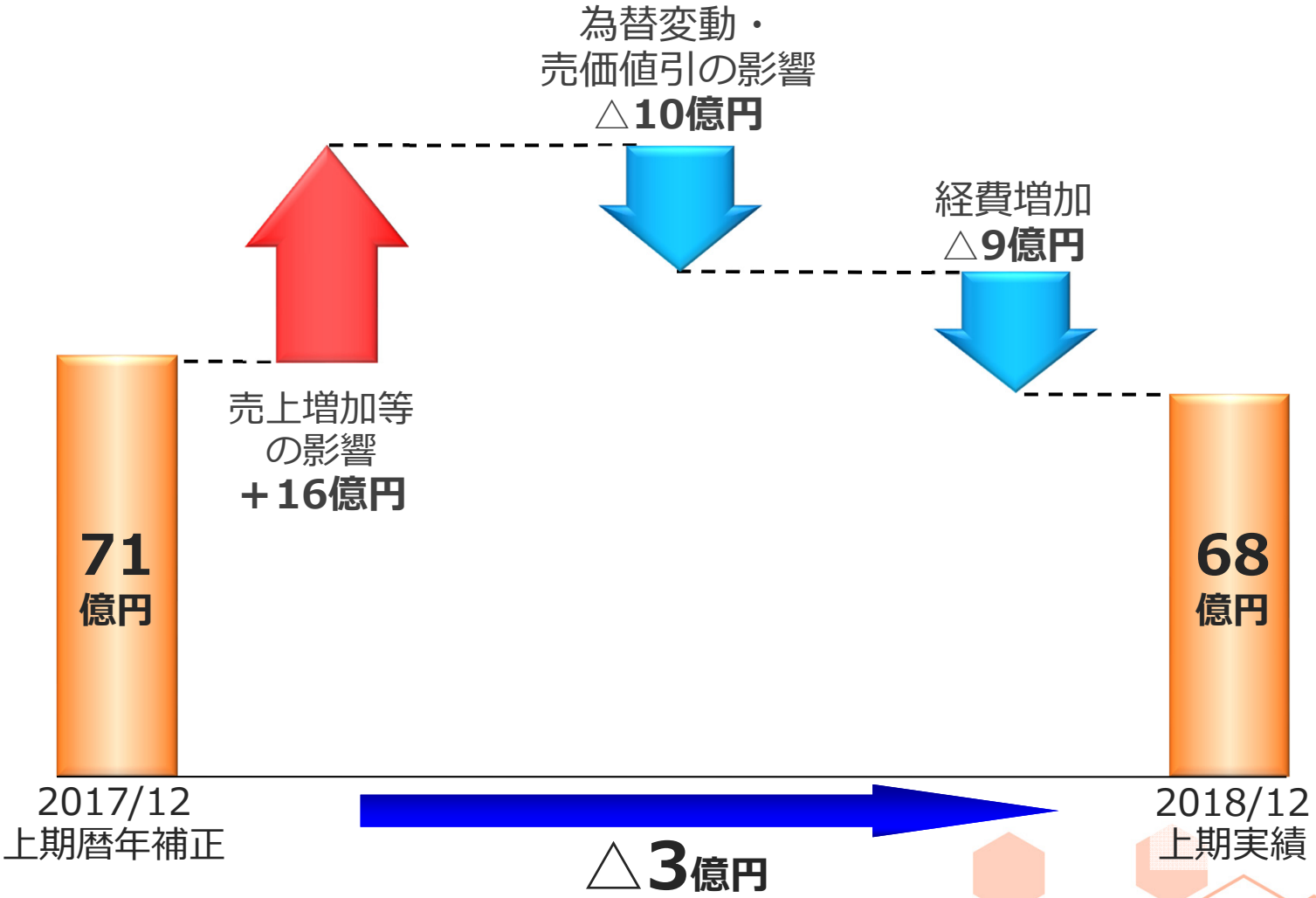
(百万円、%)

	2017/6 暦年補正	2018/6	
		増減	増減率
売上高	48,063	50,748	+2,684 +5.6
材料事業	47,385	49,686	+2,301 +4.9
エクシオ機能材料	27,669	27,814	+144 +0.5
高純度化学薬品	19,629	21,818	+2,189 +11.2
その他	86	53	△33 △38.6
装置事業	677	1,061	+383 +56.5
営業利益	4,506	4,674	+167 +3.7
材料事業	7,067	6,802	△265 △3.8
装置事業	△662	△321	+341 -
消去又は全社	△1,898	△1,806	+91 -

(注) 決算期変更に伴い、2017/12期暦年補正の第2四半期累計期間（1～6月）との比較になります。詳細はスライド3をご参照下さい。

営業利益の増減内訳（材料事業）

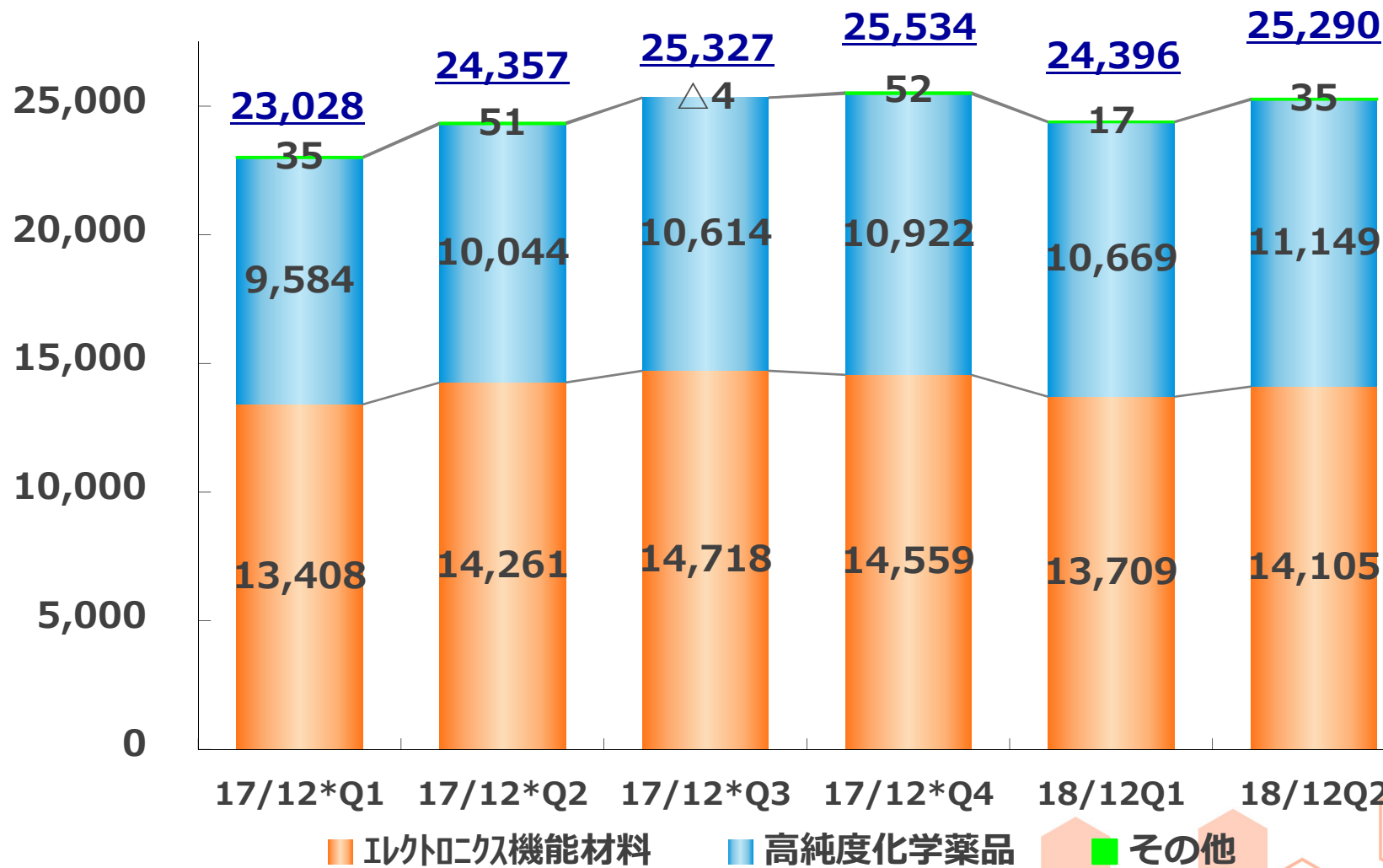
2017年12月期上期暦年補正 対 2018年12月期上期実績



(注) 決算期変更に伴い、2017/12期暦年補正の第2四半期累計期間（1～6月）との比較になります。
詳細はスライド3をご参照下さい。

材料事業の売上内訳

売上高（百万円）

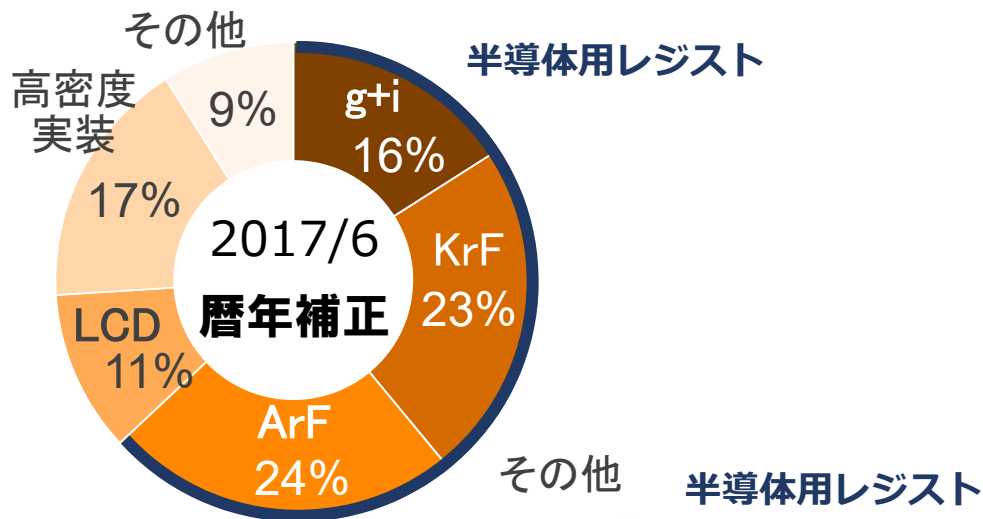


(*) 決算期変更に伴い、2017/12期暦年補正の四半期単位の数値を使用しています。詳細はスライド3をご参照下さい。

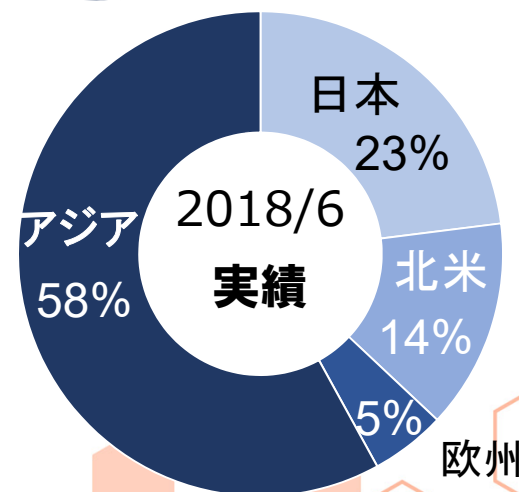
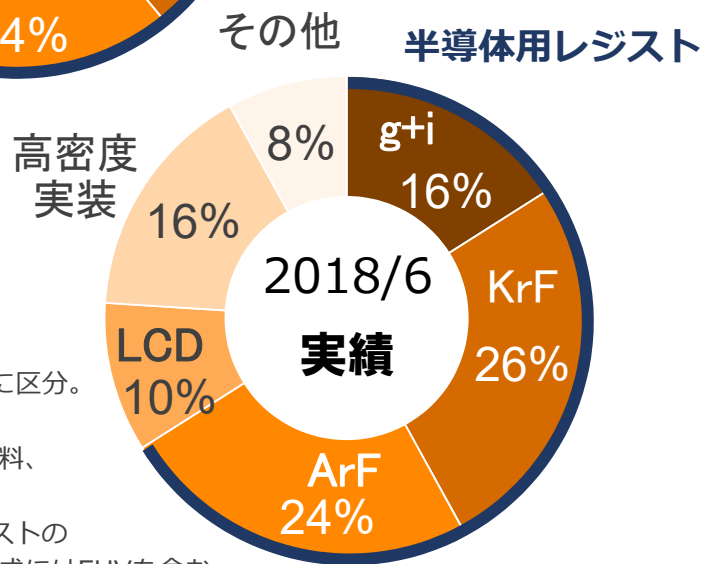
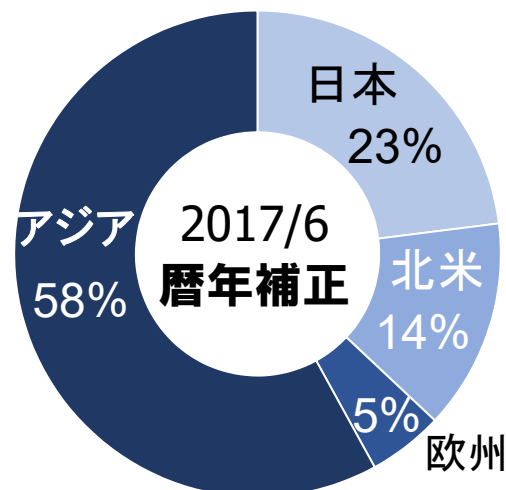


エレクトロニクス機能材料部門

エレクトロニクス機能材料の種類別売上構成



半導体用レジストの地域別売上構成



(注1) EUVはその他に区分。

(注2) 高密度実装：
パッケージ材料、
MEMS材料。

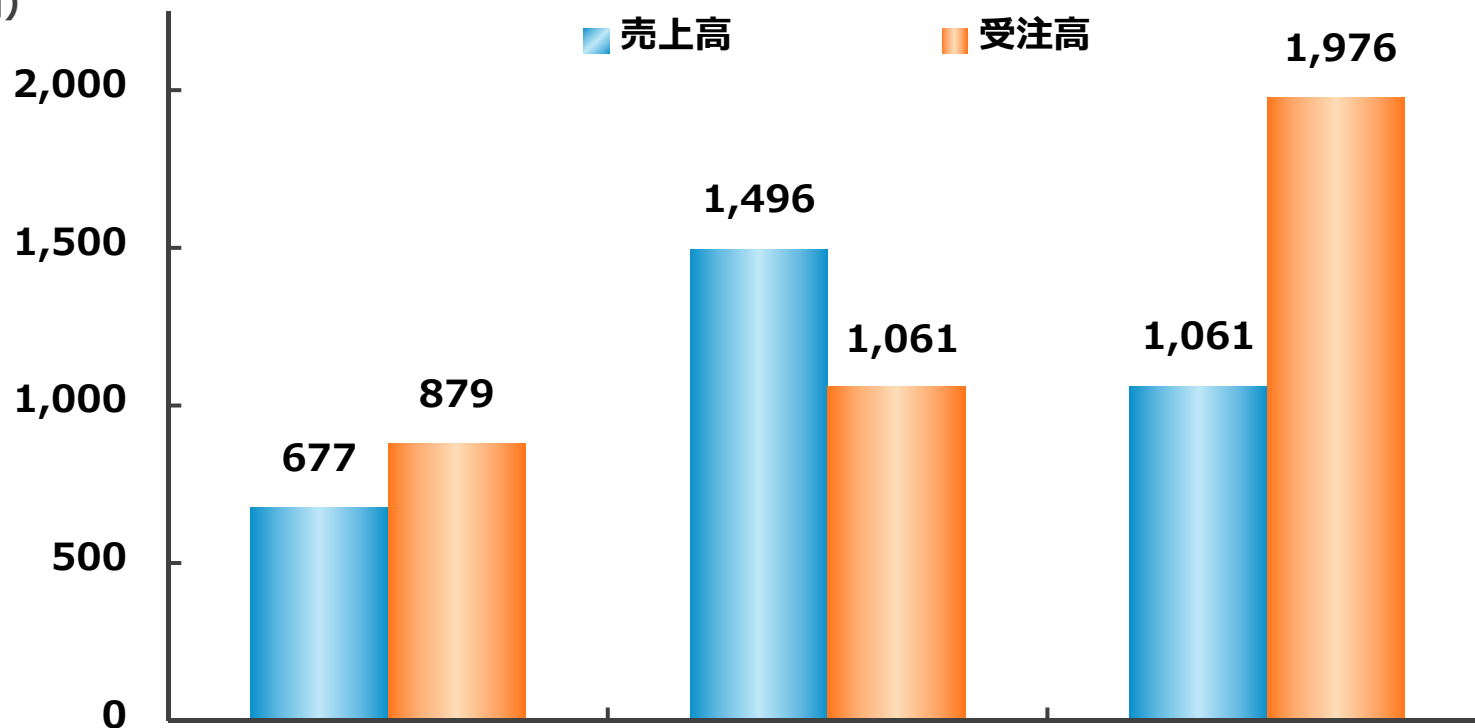
(注3) 半導体用レジストの
地域別売上構成にはEUVを含む。

(注4) 決算期変更に伴い、2017/12期暦年補正の第2四半期累計期間（1～6月）との比較になります。詳細はスライド3をご参照下さい。



装置事業

売上高・受注高
(百万円)



(百万円)	17/12上期 暦年補正	17/12下期 暦年補正	18/12上期
期末受注残高	1,423	1,190	2,291

(注) 決算期変更に伴い、2017/12期暦年補正の半期単位の数値を使用しています。詳細はスライド3をご参照下さい。

設備投資・減価償却・研究開発

(百万円、%)

	2017/6 暦年補正	2018/6	
		増減	増減率
設備投資	3,436	2,045 △1,390	△40.5
減価償却費	3,446	3,532 +86	+2.5
研究開発費	4,459	4,098 △360	△8.1

(注) 決算期変更に伴い、2017/12期暦年補正の第2四半期累計期間（1～6月）との比較になります。詳細はスライド3をご参照下さい。

比較貸借対照表

(百万円)

	2018/6	17/12末比
流動資産	94,876	+7,157
現金預金	52,791	+8,609
売上債権	21,293	△1,260
たな卸資産	15,967	+73
有形固定資産	49,023	△2,680
無形固定資産	511	+21
投資その他の資産	37,892	△875
流動負債	18,952	△2,790
買入債務	9,922	△522
固定負債	12,894	+9,473
純資産合計	150,456	△3,060
総資産	182,304	+3,622

建物及び構築物	△37
機械装置運搬具	△864
工具器具備品	△326
土地	△131
建設仮勘定	△1,337

長期借入金	+10,000
-------	---------

利益剰余金	+1,826
自己株式	△2,109
その他有価証券評価差額金	△1,036
為替換算調整勘定	△1,354

キャッシュフロー

(百万円)

	2018/6
営業キャッシュフロー	+7,693
税金等調整前当期純利益	+4,611
減価償却費	+3,532
売上債権の増減額(△は増加)	+829
たな卸資産の増減額(△は増加)	△496
仕入債務の増減額(△は減少)	△321
前受金の増減額(△は減少)	+95
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△1,039
投資キャッシュフロー	△4,225
財務キャッシュフロー	+5,807
換算差額	△686
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	+8,587

主な内訳
有形固定資産の取得 △3,835

主な内訳
長期借入による収入 +10,000
自己株式の取得による支出 △2,212
配当金の支払額 △1,929
(含む非支配株主)

2018年12月期通期業績予想

tok

© 2018 TOKYO OHKA KOGYO CO., LTD.



業績予想概要 (通期)

15

(百万円、%)

	2017/12 暦年補正	2018/12予想		
		増減	増減率	
売上高	100,422	106,200	+5,777	+5.8
営業利益	9,878	11,000	+1,121	+11.4
経常利益	10,534	11,400	+865	+8.2
親会社株主に 帰属する当期純利益	6,885	7,600	+714	+10.4

(注) 決算期変更に伴い、2017/12期暦年補正との比較になります。詳細はスライド3をご参照下さい。

- 期中平均為替 (USドル) : 111.1 円/ドル (2017/12暦年補正) ⇒ 108.0円/ドル (2018/12下期)
- 売上高 : 材料・装置の両事業の増収により、前年同一期間比+5.8%増収。
- 営業利益 : 材料事業が小幅増益にとどまるものの、装置事業の損益改善から、前年同一期間比+11.4%増益を予想。
- 当期純利益 : 営業利益の増益に伴う増益。前年同一期間比+10.4%増。

tok

事業別セグメント業績予想

(百万円、%)

	2017/12 暦年補正	2018/12予想	
		増減	増減率
売上高	100,422	106,200	+5,777 +5.8
材料事業	98,247	102,600	+4,352 +4.4
I/L外ロックス機能材料	56,947	58,300	+1,352 +2.4
高純度化学薬品	41,165	44,200	+3,034 +7.4
装置事業	2,174	3,600	+1,425 +65.6
営業利益	9,878	11,000	+1,121 +11.4
材料事業	14,868	15,100	+231 +1.6
装置事業	△1,073	△400	+673 -
消去又は全社	△3,917	△3,700	+217 -

(注1) 装置事業の売上は消去後の数字。

(注2) 決算期変更に伴い、2017/12期暦年補正との比較になります。詳細はスライド3をご参照下さい。

設備投資・減価償却・研究開発

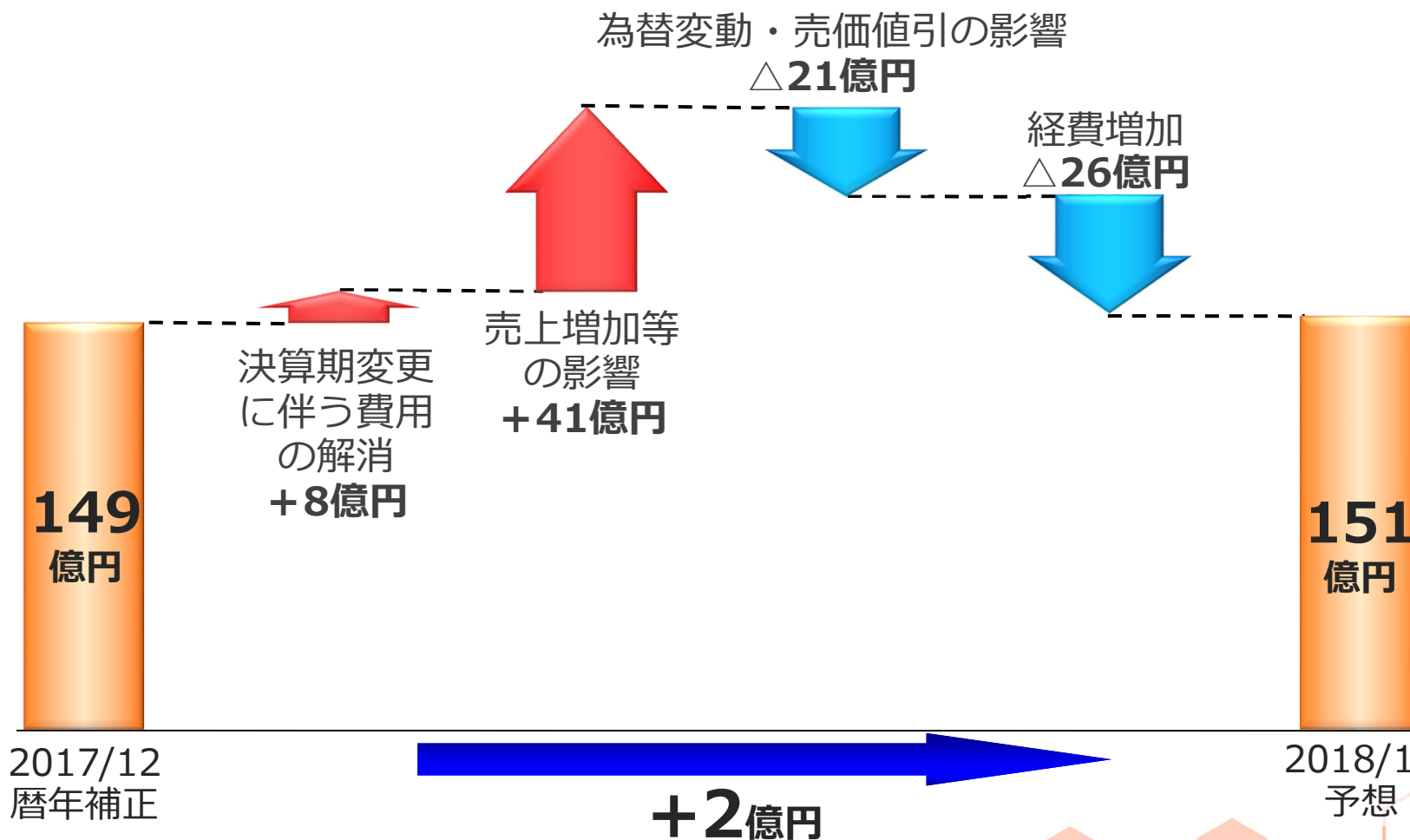
(百万円、%)

	2017/12 暦年補正	2018/12予想	
		増減	増減率
設備投資	7,633	6,900	△733 △9.6
減価償却費	6,917	7,200	+282 +4.1
研究開発費	8,888	8,500	△388 △4.4

(注) 決算期変更に伴い、2017/12期暦年補正との比較になります。詳細はスライド3をご参照下さい。

営業利益の増減内訳（材料事業）

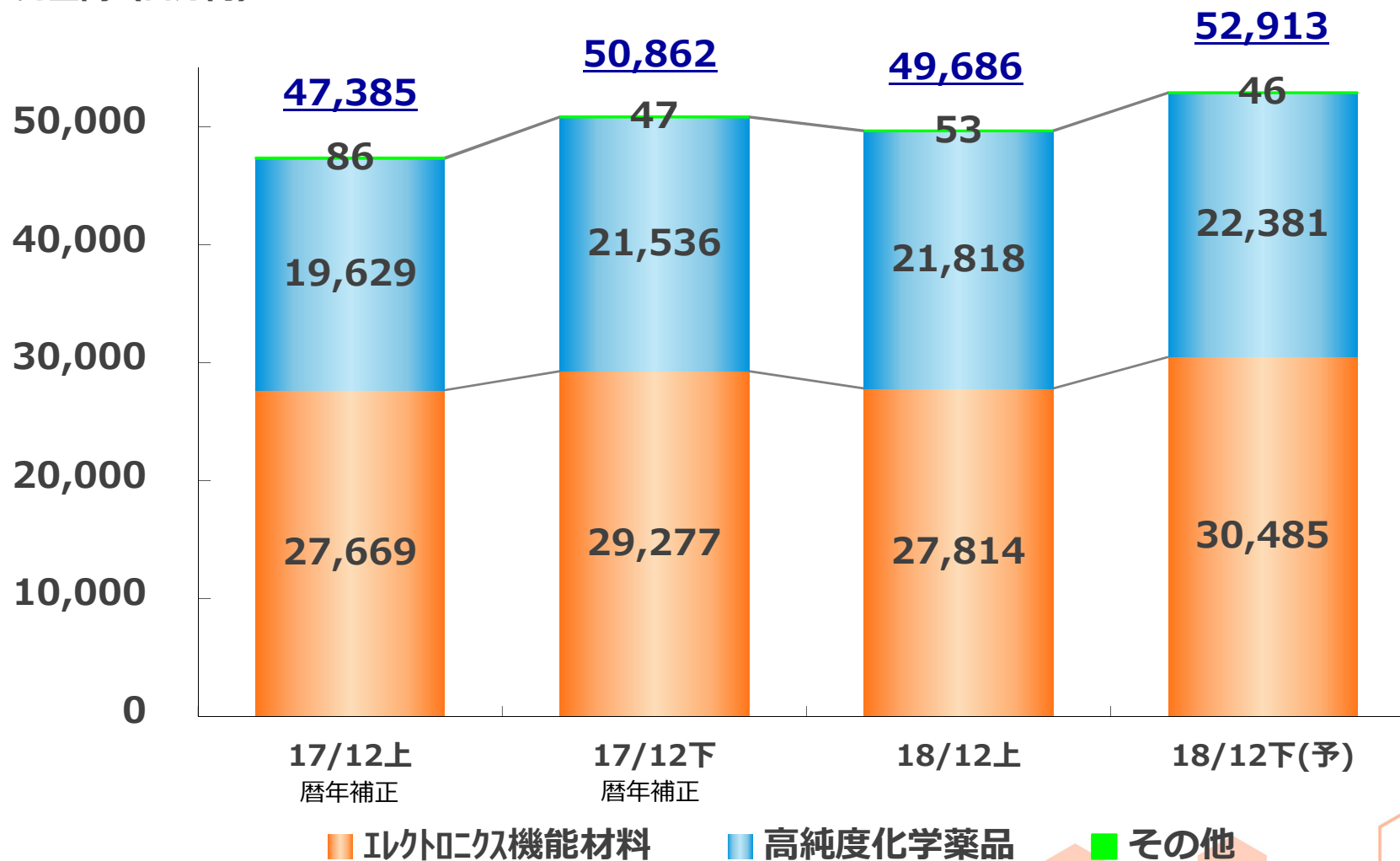
2017年12月期暦年補正 対 2018年12月期予想



(注) 決算期変更に伴い、2017/12期暦年補正との比較になります。詳細はスライド3をご参照下さい。

材料事業の売上内訳（予想）

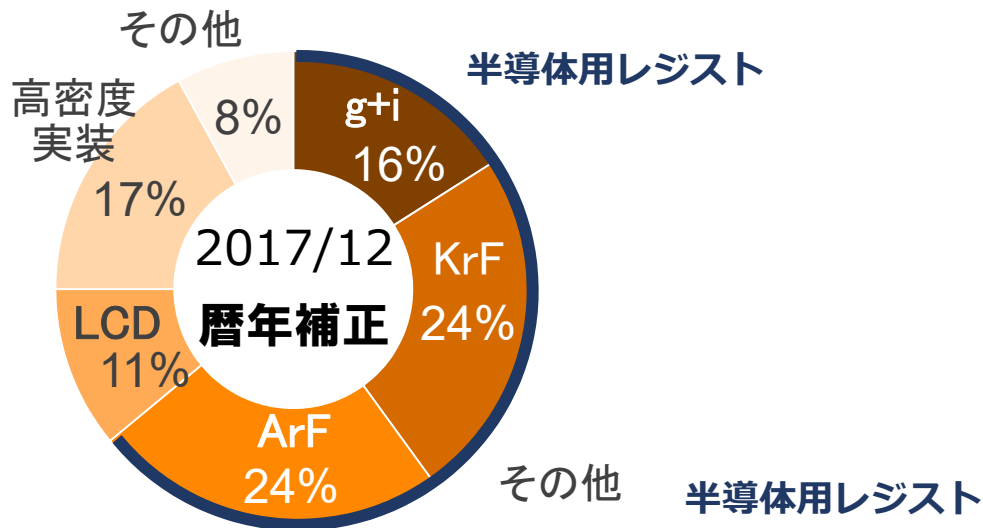
売上高（百万円）



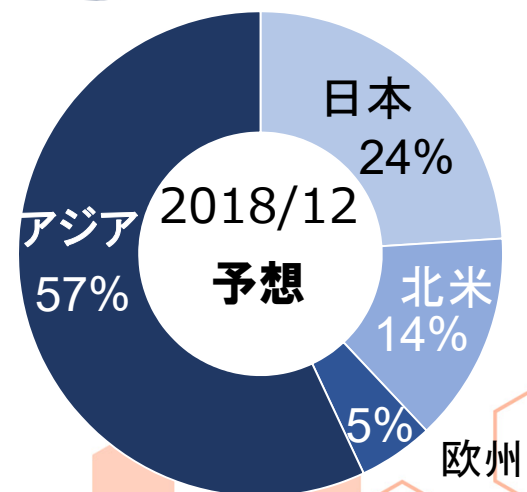
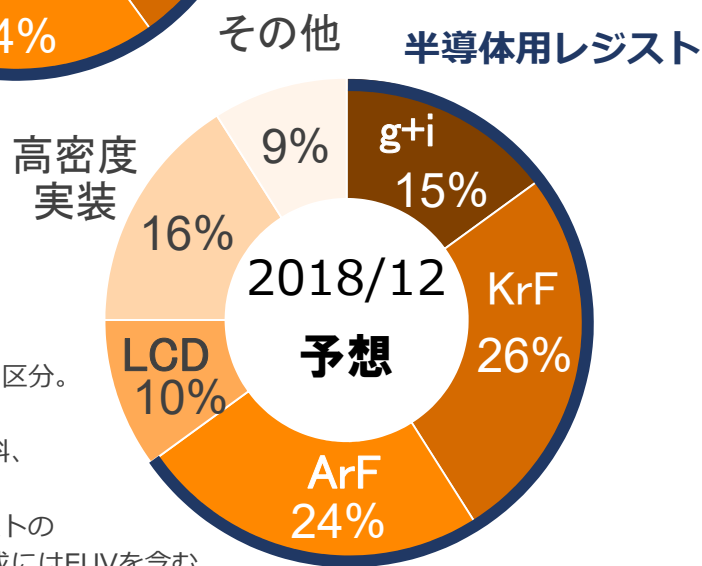
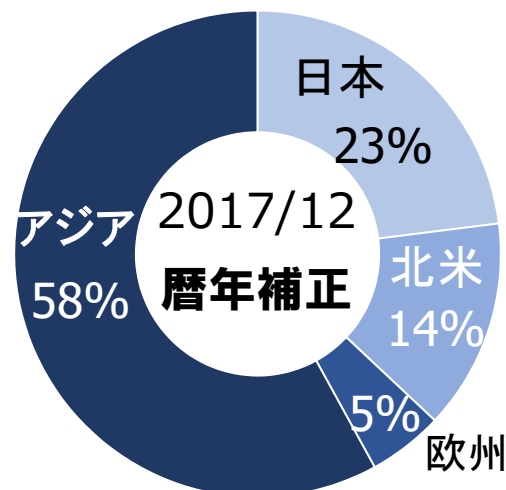
(注) 決算期変更に伴い、2017/12期暦年補正の半期単位の数値を使用しています。詳細はスライド3をご参照下さい。

エレクトロニクス機能材料部門

エレクトロニクス機能材料の種類別売上構成



半導体用レジストの地域別売上構成



(注1) EUVはその他に区分。

(注2) 高密度実装：
パッケージ材料、
MEMS材料。

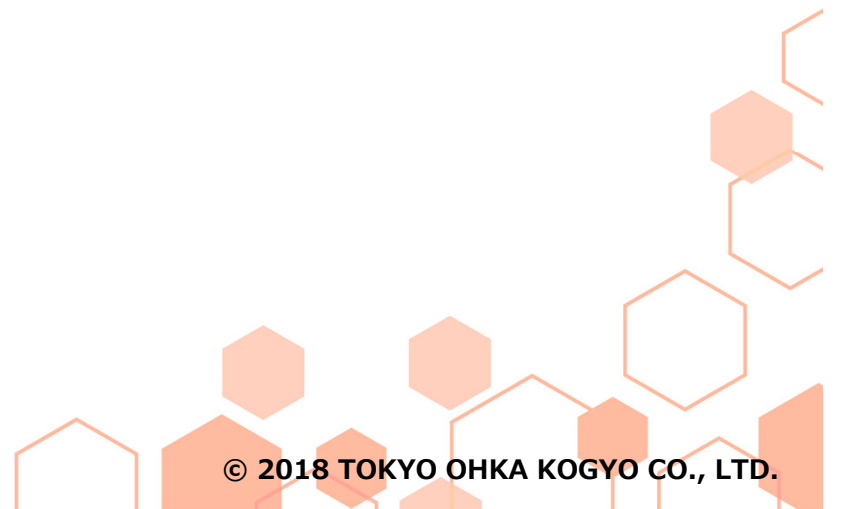
(注3) 半導体用レジストの
地域別売上構成にはEUVを含む。

(注4) 決算期変更に伴い、2017/12期暦年補正との比較になります。
詳細はスライド3をご参照下さい。

今後の重点活動について

tok

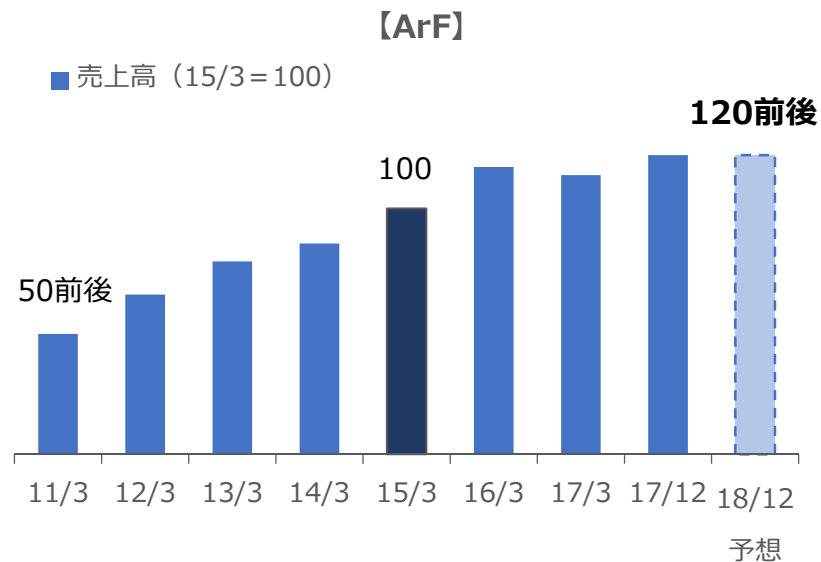
© 2018 TOKYO OHKA KOGYO CO., LTD.



製品別動向（期初見通し/現在の見通し）

事業/製品	期初時点の見通し（2018/2説明）	現在の状況/現在の見通し
ArF	<ul style="list-style-type: none"> 次世代ラインの稼働による売上増（アジア・北米） 	<ul style="list-style-type: none"> アジア：量産拡大に伴う需要増を予想 北米：2019年の本格出荷を予想
KrF	<ul style="list-style-type: none"> 次世代3D-NAND向け継続採用（日本・アジア） 	<ul style="list-style-type: none"> 日本：次世代3D-NAND向け材料選定に対応中、力強い需要が続く見通し アジア：次世代向け材料選定への対応
高密度実装材料	<ul style="list-style-type: none"> Bump適用ライン拡大（アジア） 	<ul style="list-style-type: none"> アジア：大手顧客向けBump用途の需要が拡大（パッケージ材料） 下期より回復に転換見通し（MEMS材料）
高純度化学薬品	<ul style="list-style-type: none"> 次世代ラインでのClean Solution採用及び需要拡大（アジア・北米） 	<ul style="list-style-type: none"> アジア：出荷好調、需要は力強く拡大 北米：出荷開始も本格拡大は2019年
装置事業	<ul style="list-style-type: none"> TSV装置の次世代メモリ製造プロセスへの進展（アジア） 	<ul style="list-style-type: none"> 顧客からの受注獲得（TSV装置）
EUV	<ul style="list-style-type: none"> 次世代ラインの稼働開始による売上寄与（アジア・北米） 	<ul style="list-style-type: none"> 2018/12期末頃からの売上増加を予想

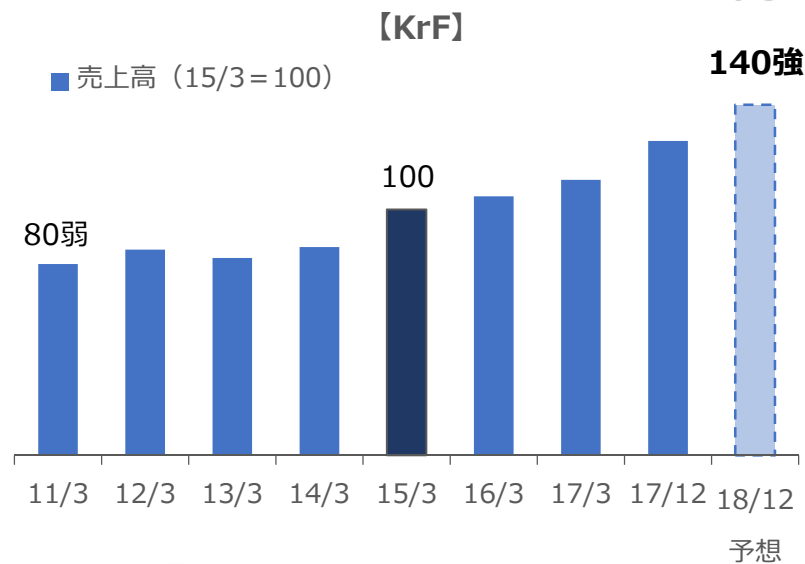
今後の重点活動①：ArF/KrF



ArF：活動の目線

□ 売上成長力の回復

- DRAM：アジア、北米の主要顧客における当社シェア挽回活動の継続
- ロジック：北米の主要顧客における当社シェア拡大



KrF：活動の目線

□ 直近売上成長の維持、更なる強化

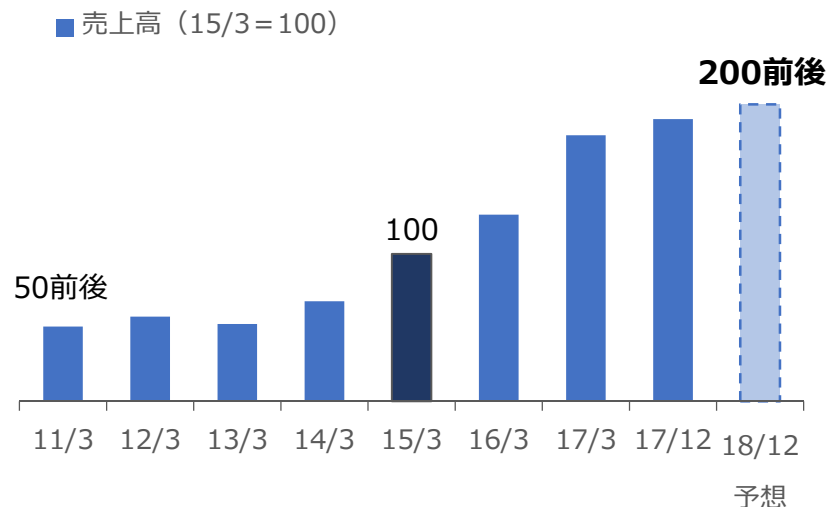
- 成長続く3D-NAND向け需要への積極対応
 - ・ 日本：密接な研究開発対応によるシェア確保
 - ・ アジア：顧客プロセスへの対応力強化によるシェア拡大

(注1) 当社は2015/3期に過去最高利益を更新。当該期売上高を100として指数化。

(注2) 2017/12期は暦年補正ベース。

今後の重点活動②：高密度実装材料

【パッケージ材料】



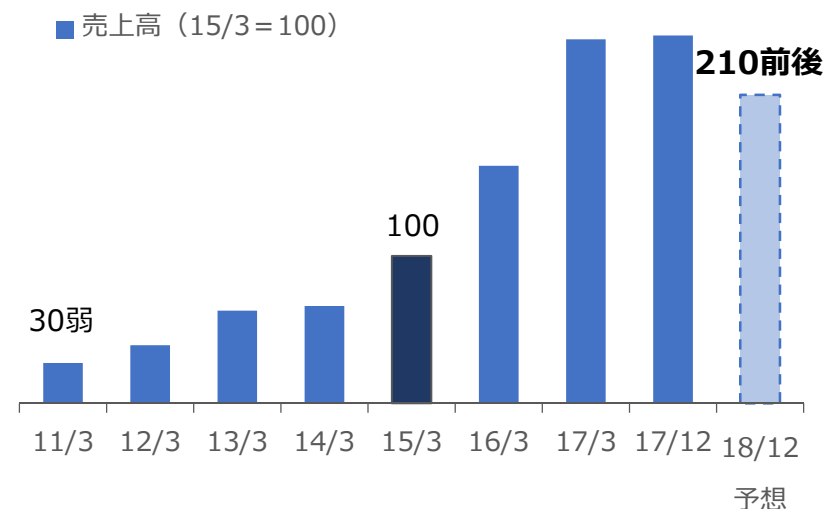
パッケージ材料：活動の目線

□ 競争が激しくなる中での成長維持

□ 技術的要求が高まる中での価格競争力強化

- 大手顧客におけるシェア維持と新規ニーズの獲得
- アジアOSATに対する積極対応

【MEMS材料】



MEMS材料：活動の目線

□ 売上成長の安定性向上

□ 顧客基盤の拡充

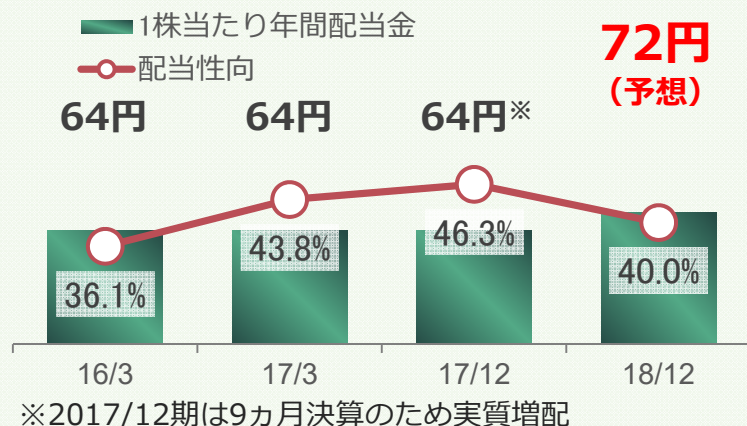
- 北米、日、アジア系大手電子部品メーカーからの採用獲得
- 中国市場への浸透、新規顧客開拓

(注1) 当社は2015/3期に過去最高利益を更新。当該期売上高を100として指数化。

(注2) 2017/12期は暦年補正ベース。

投資・キャッシュリザーブ・株主還元の新たなベストバランス追求

1. 株主還元の充実



■ 明確な配当政策・同運用

- ・ 現在の水準を考慮しつつ連結配当性向40%以上の配当の継続的に実施
(現行の配当政策は2017/3期以降の適用)

■ 自己株式の取得 (2017.11.8~2018.2.9)

- ・ 取得価額の総額：約100億円
(取得株式総数：約204万株)

■ 長期デットファイナンスの実行

- ・ 長期借入金による資金調達
(2018/6末残高：100億円)

2. 「資本コスト」への留意

<https://www.tok.co.jp/>

(ご注意)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。したがって、実際の業績は、様々な要因やリスクによりこの業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。

tok

